

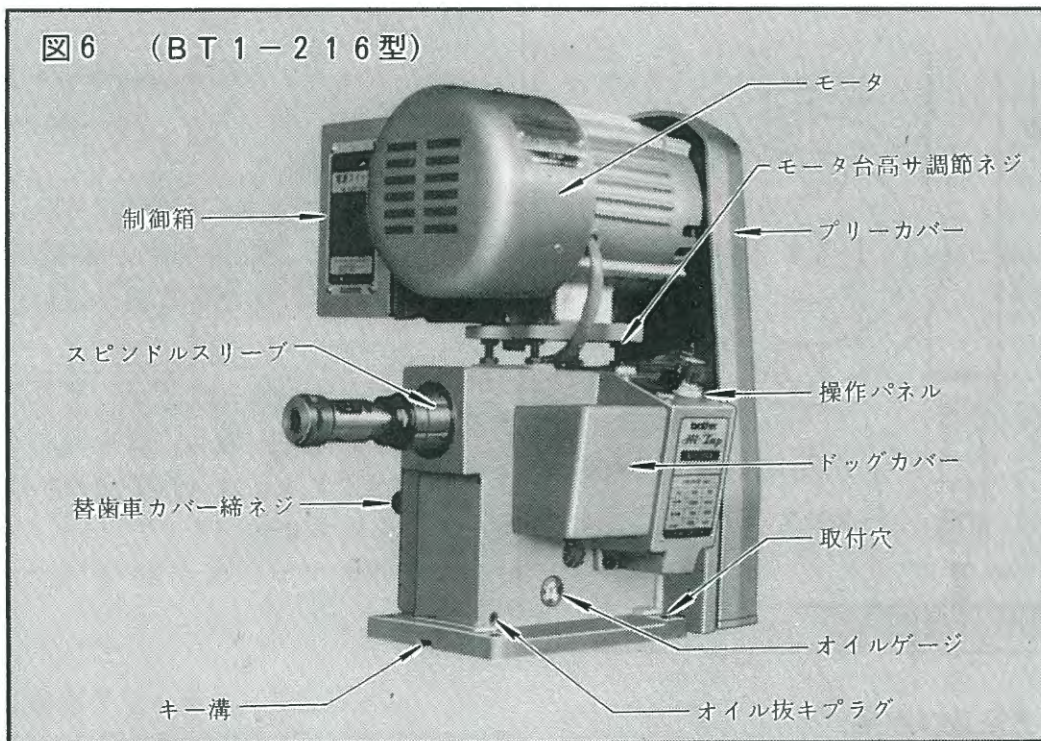
BT1-215 替歯車の交換方法

対象機種： BT1-203/BT1-215（タテ型）

操作手順

- ① 電源を入れます。
- ② 単動運転で、最下点に達する寸前で、電源スイッチをOFFにして、機械を停止させます。
- ③ 主軸が下に下がらない様に、木かアルミブロックを入れて下さい。
- ④ ギャーカバーを外します。
- ⑤ 替歯車A・Bの固定ボルトM6を緩めてC型ワッシャーを取ります。
- ⑥ 歯車Bを外し、次に歯車Aを外します。
- ⑦ 新しい歯車A・Bを付け、固定ボルトを締めます。
- ⑧ ギャーカバーを締めます。
- ⑨ 電源を入れます。主軸が回転して上昇して停止します。
- ⑩ 上昇しない時は、手動戻しボタンを押して、戻して下さい。

*別紙 2枚 参照



(1) 電源の接続

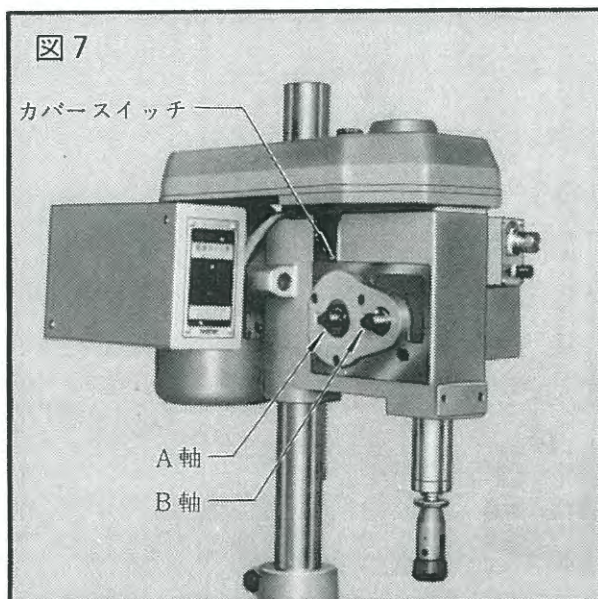
電源コードは、約2 mあり、4芯キャブタイヤコードです。尚、緑色の線はアース用です。

(注) 1. 各線の接続が悪いと種々の弊害を起こしますから、結線には特に注意してください。

2. モーターを回転させ、主軸の回転方向をチェックしてください。スピンドルスリーブが下におりているときは、左に回転します。この場合、替歯車カバーを確実に取付けていないと、モーターは回転しません。

(2) 替歯車の取付け (取替)

替歯車には、「A」「B」の刻印がありますから、図7のA軸及び、B軸にはめてください。軸径は違ってありますので、逆には取付きません。尚、本体にも、「A」「B」の刻印があります。



(替歯車取替時の注意)

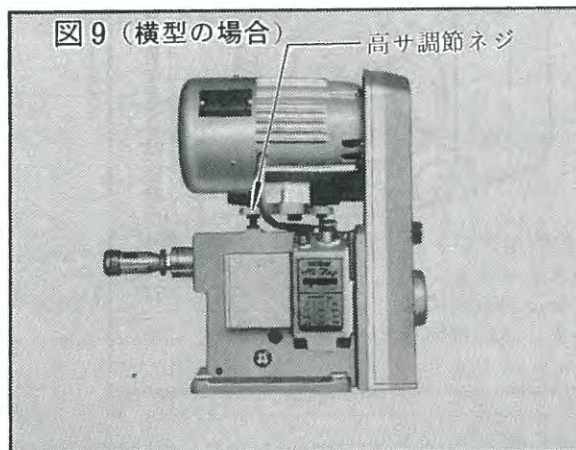
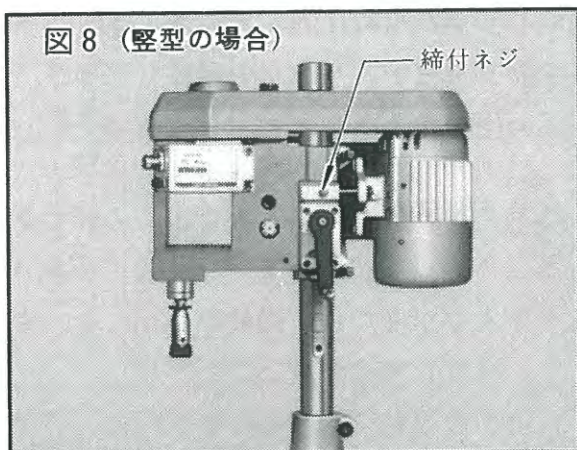
- a. スピンドルスリーブを最下点にしてから替歯車を外しませんと、歯車を外したとたん、スリーブが落下して危険です。スリーブを最下点にする方法は、機械を単動運転させ、スリーブが最下点に達する寸前に、電源スイッチを「OFF」にして機械を停止させます。
- b. 電源スイッチは必ず「OFF」(切)にしてください。

- c. 取付け後、カバーを付け忘れますとカバースイッチが入らず機械は作動しません。
- d. スピンドルスリーブが最下点の時、替歯車カバーを取付けて、電源スイッチを「ON」(入)にすると同時に、スピンドルが回転し上昇して停止します、又上昇しない時は手動戻しボタンを押して戻して下さい。

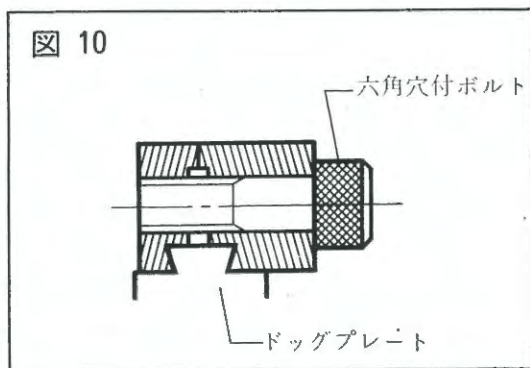
(3) 主軸回転数の選定

主軸回転数は、Vベルトのかけ替えにより、3段階に選択出来ます。Vベルトは、図8及び図9の要領でゆるみのないように張ってください。

(注) この時も、電源スイッチは「OFF」(切)にしてください。



(4) ストロークの調整



- a. ドッグカバーを横へ引張って外して下さい。
- b. ストロークの調整は、逆転ドッグを移動させることによりおこないます。

(注) 逆転ドッグは、図10のようになっています。

- c. ドッグプレートの外周には、目盛線があり、1目盛で1mmストロークが変わります。
- d. 最小ストロークは、モータ及びリレーの実用限界が、BT1型で1.2秒サイクル、BT2型で3秒サイクルですから、サイクルタイムが、これ以上になるように、設定してください。これ以下にしますと、故障の原因となります。

(5) 本体の上下調整 (図5参照)

クランプボルトをゆるめてから、本体を昇降させ、位置が決まったら、必ずクランプボルトを締め付けてください。(本体上下ハンドルを共通使用します)

(6) 主軸駆動クラッチ及び安全クラッチの調整

前述 3. 機構の(3)及び(4)項を参照してください。